

シンポジウム 棚田と災害

近年頻発する集中豪雨や地震によって、棚田自体の被害と同時に棚田地域の住居等建物にも大きな被害が生じている。その被害の実相は様々である。文化財に指定されている姨捨棚田でも、棚田オーナー制度の棚田でも、集中豪雨による被害があとを絶たない。また、棚田と錦鯉で有名な旧山古志村などでは2004年10月の中越地震によって、栄村では2011年3月12日の長野県北部地震によって、棚田だけでなく地域全体に甚大な被害が生じた。

このシンポジウムでは、豪雨と地震による棚田の被害について、二つの災害を対比的にとらえて、災害の諸相、被害の特性、対応としての災害復旧の実態などを検討する。そして、棚田と棚田地域を持続するための対応策と同時に棚田地域で始まった新たな動きを探る。

報告テーマと報告者プロフィール



基調報告 棚田における災害—棚田の災害の種類とその対応

木村 和弘 (きむら かずひろ) 棚田学会理事 信州大学名誉教授

1946年神奈川県生まれ。2011年まで信州大学農学部教授(農村計画・農業土木学)。中山間地域の農地荒廃化対策や急傾斜地水田(棚田)の圃場整備技術の開発などの研究に従事。各地の棚田の保全・整備計画に関わる。また長野県北部地震の栄村震災復興計画策定委員会の委員長を務めた。著書に「持続的農業のための水田区画整理」(共著・農林統計協会)「信州発 棚田考」「続信州発 棚田考」(ほおずき書籍)など。



事例報告(1) 重要文化的景観・姨捨棚田における災害の発生

矢島 宏雄 (やじま ひろお) 千曲市文化財センター所長

1954年生まれ。姨捨の棚田近くの旧戸倉町羽尾出身、國學院大學で考古学を専攻、1978年、旧更埴市教育員会に文化財担当者として就職、開発に伴う遺跡の発掘調査、史跡森將軍塚古墳の発掘調査や復原整備、古墳館建設、運営に携わり、2002年より名勝「姨捨(田毎の月)」保存整備事業を担当。棚田オーナー10年を経て、2013年より市役所若手職員有志による棚田保全体「名勝姨捨棚田倶楽部」を結成し、代表。約1反5畝8枚の名勝指定地の棚田を耕作、倶楽部員は30名、平均年齢は30歳代と姨捨の棚田関係団体の中で、最も若い団体。棚田学会会員。



事例報告(2) 石積み棚田の災害と復旧

岡島 賢治 (おかじま けんじ) 三重大学大学院生物資源学研究科共生環境学専攻地域保全工学講座 准教授

1976年熊本県熊本市生まれ。2006年東京大学大学院農学生命科学研究科にて博士号取得、農業土木を学ぶ。専門は水利施設工学で水利施設の安定性解析を研究している、2008年より、農地の石積みについて研究を始め、関東以西の棚田地域や段畑地域を中心に現地調査を行い、農地の石積みの自然災害による被災状況の傾向や地域資源としての可能性を研究している。棚田学会員。



事例報告(3) 地震被害を契機に新たな村づくり—栄村小滝集落(長野県)

樋口 正幸 (ひぐち まさゆき) 長野県栄村小滝復興プロジェクトチーム代表

1958年長野県下水内郡栄村生まれ。1977年4月、栄村役場就職、2011年3月12日発生長野県北部地震、小滝集落は甚大な被災を受ける。小滝区長として被災1年目の震災対策をする。小滝復興プロジェクトチームを結成、水田の維持を集落存続の基礎と位置付け「小滝震災復興計画」を集落で策定し復興活動を展開する。2013年3月栄村役場退職。小滝集落に腰を据え、震災により耕作者のいなくなった水田を担いながら「小滝米」ブランド化を目指し販売促進活動を展開している。



コーディネーター・司会

千賀 裕太郎 (せんが ゆうたろう) 棚田学会会長 東京農工大学名誉教授

1948年北海道生。東京大学農学部1972年卒。農林省にて、農業水利事業、圃場整備事業などを担当。ドイツ連邦共和国食糧農林省・ボン大学へ留学。宇都宮大学助手・助教授、東京農工大学農学部教授を経て東京農工大学名誉教授。千賀まちづくり研究所長として美しいまち・むらづくりを支援。著書に「水資源管理と環境保全」(鹿島出版会)、「よみがえれ水辺・里山・田園」(岩波書店)、「水を育む」(農文協)、農村計画学(朝倉書店)等。

申し込み用紙

シンポジウム(資料代1000円 会員無料)に参加します。 懇親会(会費5,000円)にも参加します。

(懇親会参加ご希望の方はにレ印を付けて下さい。)

お名前

所属

E-mail

今後棚田学会の催し物の御案内をご希望の方は、E-メールアドレスをご記入下さい。

申し込み先…FAX.042-385-1180 E-mail: tanadagakkai@gmail.com (大会事務局専用)